

千葉商科大学×日刊工業新聞 特別企画

CUC×SDGsまるわかりプロジェクト初開催！

持続可能な開発目標（SDGs）に関する教育を積極的に進め、未来社会をけん引する人材育成を手がける千葉商科大学（CUC）。今年、夏学期シーズンに、学生30人（1年生～3年生）が参加した全6回の「CUC×SDGsまるわかりプロジェクト」を初開催。SDGsを具体的に知ること、このように行動を起こしていけば良いか考え方を学んだ。

初めて学んだSDGsの本当のじゆ

本プロジェクトは応募者60人以上の中から選ばれ、全日程がオンライン形式で行われた。初日の8月24日、原科幸彦学長は「SDGsの本質を知り、ライフサイクル全体を把握する力を身につけて、社会で生かしてほしい」とエールを送った。

今回、ソフトバンク、イオン、凸版印刷、ミチコーポレーション、日刊工業新聞社の5社が協力し、各社のSDGsに関する実践的な取り組みや課題について学生が取材した。さらにCUCで行われている学生団体の活動やSDGsの経営事例を学んだことで、今まで難しく捉えがちだったSDGsを言葉だけでなく具体的に認識し自分ごとととらえ、今後の行動変容につながるきっかけを見出すことを目的とした。

最終回の成果発表では、①取材企業の取り組み

②企業が抱えるSDGsに関する課題への提案
③プロジェクトで学んだこと④行動変容としてどう生かすか、がテーマに設けられ、チームごとにプレゼンテーションを実施。結果は「日刊工業新聞社チーム」が優勝した。中小企業へのSDGsの浸透策と他媒体との差別化を図る必要性について、体験型施設の開設を提案。学生のアイデアと中小企業の生み出す力、新聞社の発信力がコラボレーションすることで、ビジネス展開やSDGsのプロモーションに相乗効果をもたらすのではないかと発表し、評価された。

正しい知識を学び行動変容へ

取材先は、大手から中堅中小まで、業種も多様にもかかわらず、プロジェクト後の学生からは、「いち早く周りに情報発信をしたい」という声が多く上がった。それには企業の課題に、社内外との情報共有の難しさや、まだまだ消費者への情報発信が不足しており、SDGsの加速の妨げになっていると知ることができたからだ。SDGsの宣言である『地球上の誰一人として取り残さない』という目的を学び、2030年以降も続く個人や企業、社会の課題であると正しい情報を学んだ成果といえる。

参加学生の全員が17個すべてのゴールに貢献したいと回答している。「まずは家族や友人に伝

えたい」「知らない人に共有して有志を増やしたい」「就職した企業が丸となって取り組める活動をする」など、自分が主体となりコミュニケーションの輪を広げていく具体的なイメージを描いた。



小田さん(右)ら学生が、打ち合わせの様子

社会の一員の第一歩へ

CUCの教育方針には「高い倫理観」「幅広い教養」「専門的な知識・技能」を「CUC3つの力」として定めるとともに、それを構成する能力要素を「CUC6つの能力要素」として定めてカリキュラム編成を行っている。本プロジェクトも、学部や学年の垣根を越えて、いつもの仲間とは違う知識を出し合い意見交換を行うことで新たな考え方を学ぶことができた。さらに、SDGsという専門性を身につけて、今後どのように行動に移すべきか、社会の一員としてどのような行動をするべきなのか、第一歩を踏み出した。

学生が企業を取材し、各社の取り組みをまとめ、提案まで行いました。初体験と思うが戸惑う様子はなく意欲も伝わってきました。就職など今後の活動に生かしてほしいです。



講師よりコメント
日刊工・松木記者

優勝

日刊工業新聞社チーム

なかだ 中田勇太さんのコメント：「バランスの良いチームで意見を出し合うことができた。発表したサステナラボは、みんなで実際に行きたくないイメージを膨らませた。評価いただき大変嬉しい」とし、本プロジェクト開催への感謝を語った。



左奥から立石翔大さん、中田勇太さん
野口絢海さん、早崎亜美さん、逆井翠岐さん
小田健斗さん(欠席)